

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー






南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/3 （12/20との比較）	1/3 （12/20との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.54% （▲0.08）	83.17円 （▲0.08%）	+1.7% 2019年3Q	1.75%	発表されたGDP（国内総生産）が市場予想を下回り、製造業PMI（購買担当者景気指数）は前回比で低下。年明けの米国とイランの対立により中東情勢の緊迫化への懸念が高まる中、国債利回りは低下。カナダドルは対円で下落。	国際商品貿易や住宅着工件数、雇用統計などが発表予定。先週に続き経済指標が低調である可能性があり、地政学リスクへの懸念が高まる中、債券・為替市場はともに現在の水準をはさんで一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
ブラジル 	BB-	5.77% （▲0.16）	26.59円 （▲0.36%）	+1.2% 2019年3Q	4.50%	発表された全国失業率が市場予想以上に改善する内容となり、貿易黒字も輸出増を主因に市場予想以上に増加。大手格付け会社が財政赤字削減を条件に格上げを示唆したものの、レアルは対円で下落。国債利回りは低下。	鉱工業生産やインフレ指標などが発表予定。足元では景気回復の兆しがみられ、中銀が幾度となく為替介入を行い、レアル安を放置しない姿勢を示していることなどから、レアルは引き続き底堅い動きを予想。
	Ba2	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		
メキシコ 	A-	6.73% （▲0.11）	5.71円 （▲1.12%）	-0.3% 2019年3Q	7.25%	発表された失業率と貿易収支が市場予想を上回る内容となったものの、年明けに発表された製造業PMIは前月比で低下する内容。中東情勢緊迫化への懸念が高まる中、メキシコペソは対円で下落。国債利回りは低下。	CPI（消費者物価指数）や鉱工業生産などが発表予定。USMCA（米国・メキシコ・カナダ協定）の進展への期待はあるものの、地政学リスクへの懸念が高まる中、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	A3	↓ 金利低下	→	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/3 （12/20との比較） 今後の見通し （※4）	1/3 （12/20との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	1.25% （▲0.03）	75.13円 （▲0.51%）	+1.7% 2019年3Q	0.75%	発表された民間部門信用が市場予想を下回る内容で、製造業PMIは前月比で低下。中国人民銀行の預金準備率引き下げを一時好感したものの、その後は中東情勢緊迫化への懸念から豪ドルは対円で下落。国債利回りは低下。	住宅建設許可件数や貿易収支、小売売上高などが発表予定。米中通商協議の進展への期待はあるものの、地政学リスクへの懸念が高まる中、債券・為替市場はともに現在の水準をはさんで一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
ニュージーランド 	AA+	1.59% （▲0.04）	72.03円 （▲0.29%）	+2.3% 2019年3Q	1.00%	特に注目すべき経済指標の発表は無し。中国人民銀行の預金準備率引き下げを好感し、ニュージーランドドルは対円で約5カ月ぶりの高値水準まで上昇したが、その後は中東情勢緊迫化への懸念から下落。国債利回りは低下。	住宅価格や商品価格などが発表予定。昨年の利下げにより実体経済の下支え効果が今後現れ、次回の利下げは回避されるとの見方もある中、債券・為替市場はともに現状水準での一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
ノルウェー 	AAA	1.39% （▲0.12）	12.24円 （+0.34%）	+1.3% 2019年3Q	1.50%	発表された小売売上高が市場予想を上回る内容となり、失業率が前月比で低下し改善を示す内容。中東情勢緊迫化への懸念が高まる中、国債利回りは低下。ノルウェークローネは対円で上昇。	鉱工業生産やGDP、CPIなどが発表予定。中銀のタカ派スタンスは当面続くものと予想、相対的に良好な経済環境にあることなどから、ノルウェークローネは堅調な推移を予想。債券市場は一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		1/3 (12/20との比較)	1/3 (12/20との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
南アフリカ 	BB+	7.25% (+0.05)	7.56円 (▲1.54%)	+0.1% 2019年3Q	6.50%	発表された貿易収支は市場予想を下回る内容となり、民間部門信用の伸び率が前月比で鈍化。格下げリスクがやや低下し、売り買いが交錯する中、国債利回りは上昇。ランドは対円で下落。	製造業PMIや製造業生産などが発表予定。米中通商協議の進展への期待はあるものの、地政学リスクへの懸念が高まる中、債券・為替市場はともに現在の水準をはさんで一進一退の展開を予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気停滞	 利下げ局面		
インドネシア 	BBB-	6.41% (▲0.10)	0.78円 (▲0.98%)	+5.0% 2019年3Q	5.00%	発表された消費者信頼感指数と製造業PMIは前月比で改善を示す内容。中国人民銀行の預金準備率引き下げを一時好感したものの、その後は中東情勢緊迫化への懸念からインドネシアルピアは対円で下落。国債利回りは低下。	CPIなどが発表予定。ジョコ政権の公約であるインフラ整備や規制緩和に加えて短期的な経済対策への期待もあるが、地政学リスクへの懸念が高まる中、債券・為替市場はともに現在の水準をはさんで一進一退の展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
インド 	BBB-	6.36% (▲0.07)	1.51円 (▲2.19%)	+4.5% 2019年3Q	5.15%	発表された製造業PMIが前月比で改善を示す内容。中東情勢緊迫化への懸念が高まり、原油価格上昇のインフレへの悪影響の懸念もあり、インドルピアは対円で下落。国債利回りは低下。	鉱工業生産などが発表予定。中期的にモディ政権の構造改革と経済対策は景気浮揚を促すと考えられるものの、地政学リスクへの懸念が高まる中、債券・為替市場はともに現在の水準をはさんで一進一退の展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気回復	 利下げ局面		

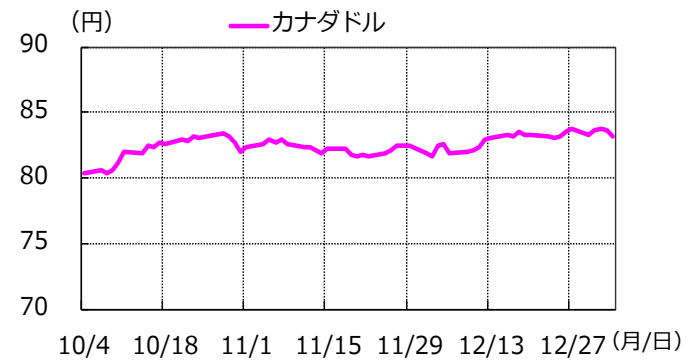
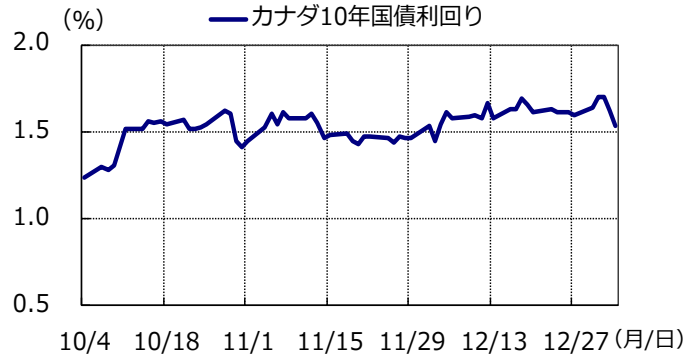
出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
- ※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

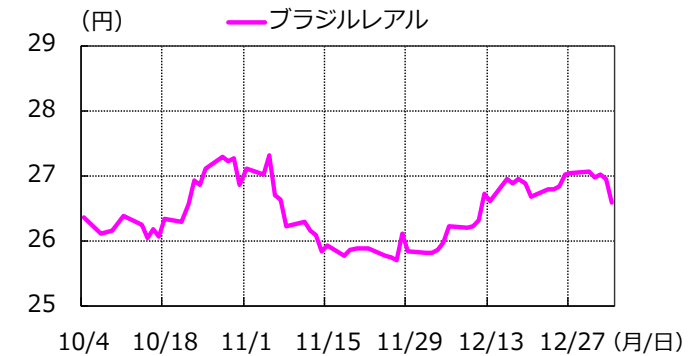
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/10/4~2020/1/3

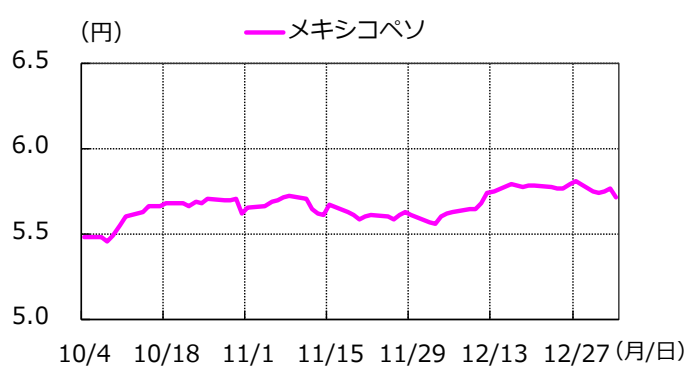
カナダ



ブラジル



メキシコ

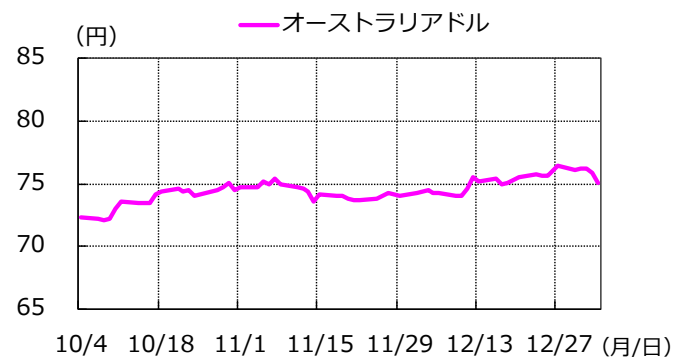
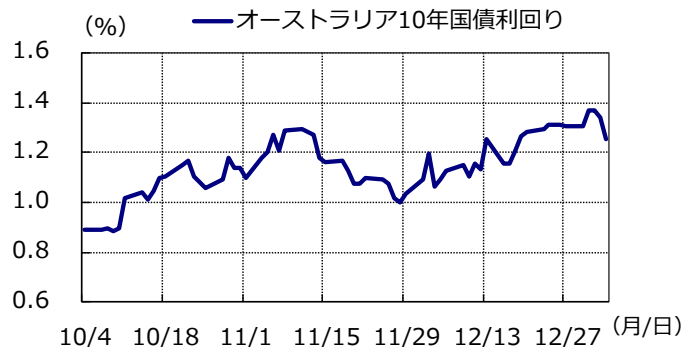


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

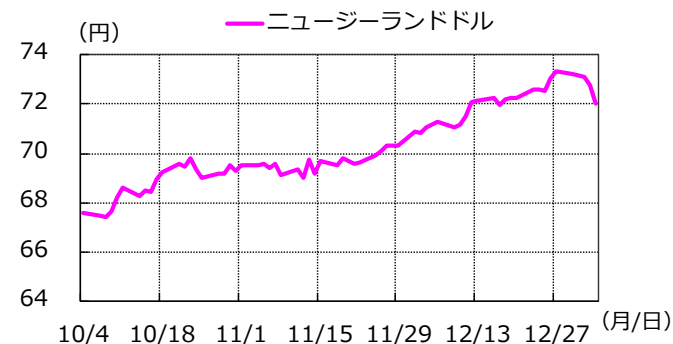
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/10/4~2020/1/3

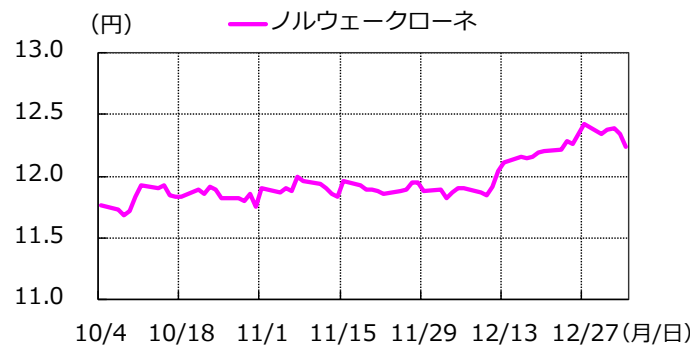
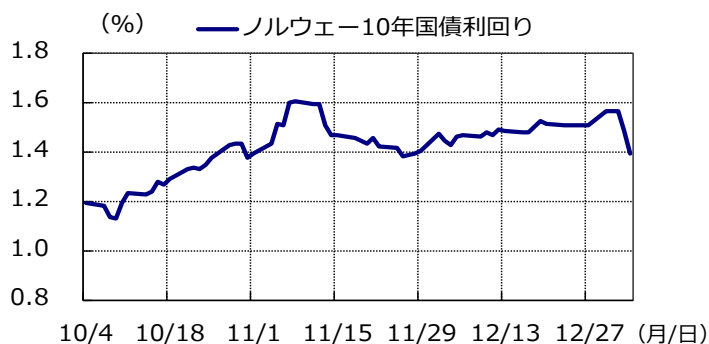
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

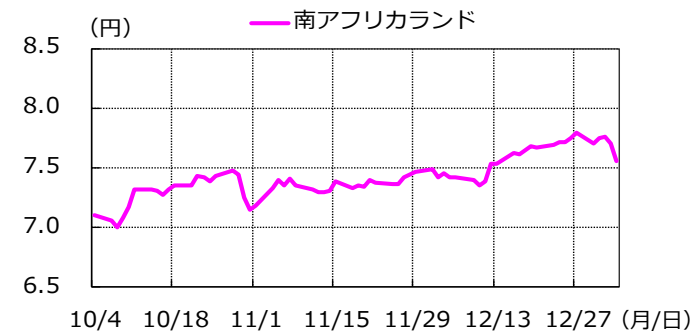


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバークのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

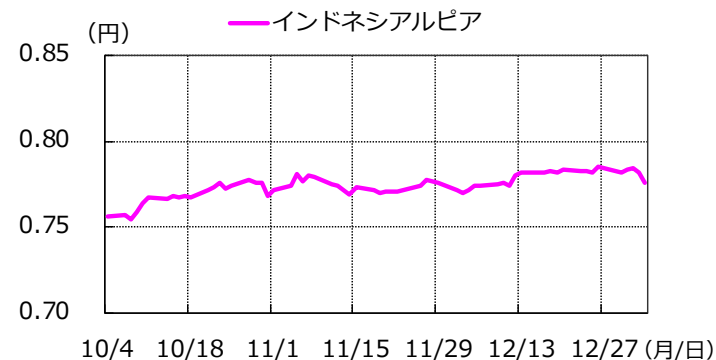
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/10/4~2020/1/3

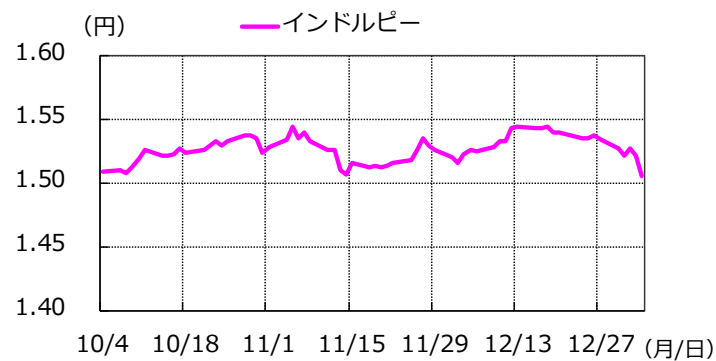
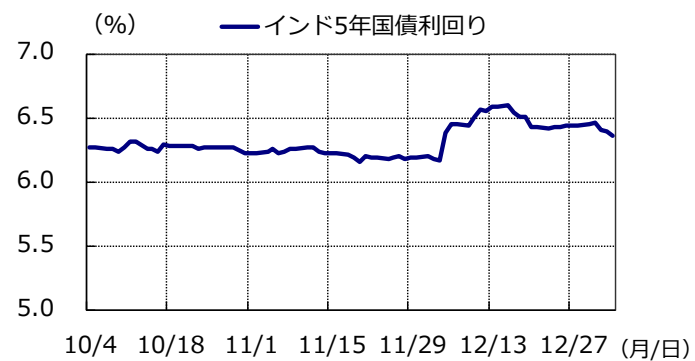
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。